未来を創る子どもたち

～つながり合い・学び合い・千代田愛～

千代田中学校だより ６月号

【確かな学力】

校長室の前まで生徒はあまり来ないのですが、なにかの拍子に目に入ればと、時々学校内に咲いている花を飾っています。今は、まだつぼみの紫陽花。先日、掃除当番で校長室前をきれいにしてくれていた3年生の生徒と何色の花が咲くのかなと話をしていたとき、ふとずいぶん前に見たサスペンスドラマを思い出しました。たくさんの紫陽花が咲いている場所で、一か所だけ花の色が違っていることに気が付いた刑事が、事件の謎を解いていくというストーリーです。そのことを話すと、一人の生徒が、花の色の違いは土の性質の違いだと気が付き、なめてみたらわかるのでは、と。酸性ならすっぱいし、アルカリ性なら苦いはずだと言うのです。

酸性がすっぱいのはイメージしやすいですが、アルカリ性が苦いなんてよく知っているなあと思い尋ねてみると、「前にお風呂でシャンプーが口に入ってしまった時に、ものすごく苦かった。その後、学校で石鹸水がアルカリ性だと習った。シャンプーも石鹸水も同じようなものだから、アルカリ性の物は苦いんだろうと思った」と説明してくれました。 とても感心すると同時に、誇らしく思いました。これが今求められている学力そのものだからです。

今の時代、学校がめざしているのは、単に「テストで良い点数を取るための暗記」ではありません。私たちは、次の「三つの力」をバランスよく育てたいと考えています。

① 暮らしに生きる「知識」。教科書の中だけで終わる暗記ではなく、「あ、これってあのことか！」と自分の生活と結びつけられる生きた知識です。

② 知っていることを使って「考える力」。「シャンプーが苦かった（体験）」と「石鹸はアルカリ性（授業の知識）」を自分で繋ぎ合わせて、「アルカリ性は苦いんだ」という自分なりの大発見（仮説）を生み出す力です。さらにそれを、「紫陽花の色の謎」という初めて出会った問題に応用してみせたこと。これこそが、これからの時代を生き抜く最高の「考える力」です。

③ 自分からやってみようとする「姿勢」。紫陽花の謎について会話を楽しみながら、自分で進んで「こうじゃないか」と意見を言える主体性です。

世の中が激しく変化し、これからは「正解のない問い」が増える時代と言われています。ただ言葉を知っているだけの知識なら、スマートフォンで検索すれば一瞬で出てきます。大切なのは、学校で得た知識を道具にして、「こういうことではないか」と自分の頭で考え、多様な人たちと協力して課題を解決する力です。

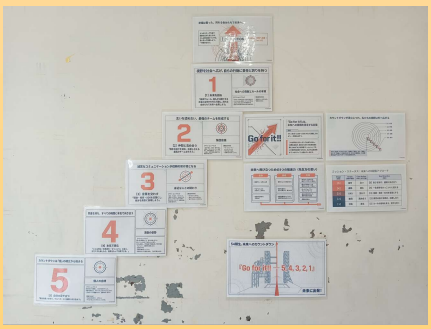
学校での勉強が、子どもたちの生活や未来に繋がっていることや、そんな頼もしい力を確かに身につけた生徒がいるという手ごたえを感じられた放課後のひとときでした。

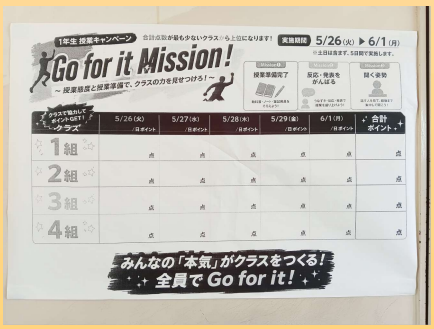
5月の学校生活（各学年の掲示物）

各学年とも、校外学習（1年生）、宿泊学習（2年生）、修学旅行（3年生）にむけて、活発な取組みを行っている様子や、学習の成果が掲示されています。

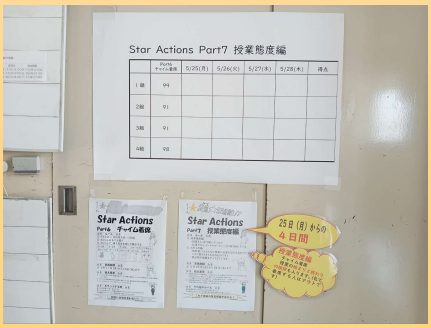
2年生の宿泊学習の行き先は神戸。神戸と言えば牛肉！「仲間の思いやりを見つけて、牧場を牛でいっぱいにしよう」というユーモアたっぷりの取組みです。

1年生

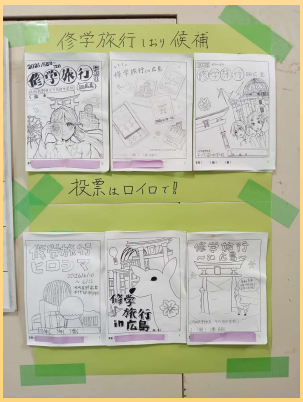


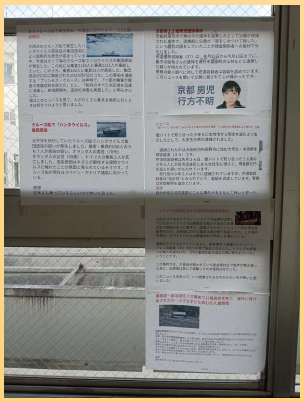


2年生



3年生





3年生の廊下には、過去の入試問題が置かれています。
行事も学習も両方がんばろう